

熊本県知事 蒲島郁夫様

2014年2月13日

ダムによらない治水・利水を考える県議の会

平野みどり・松岡徹・鬼海洋一・岩中伸司・西聖一・磯田毅

立野ダム建設計画について、県として、県民への説明を

立野ダム建設には、「世界の阿蘇」の自然、環境、観光への影響、白川への影響、穴あきダムの3つの穴（5m）が流木等でふさがったり、想定外洪水の際の重大な危険性、等々、様々な問題が指摘されています。また「県内の球磨川では『ダムなし治水』が進められているのに、なぜ白川ではダムなのか？」といった疑問もあります。

もとより、国土交通省の説明責任が求められていますが、「県議の会」の「説明」要請に、「ホームページで説明している」「パンフレットを出した」「行政を通じての要請以外は対応しない」という態度です。

国土交通省が説明責任を果たさない現状において、「立野ダム建設推進」に賛成し、多額の負担金を拠出する熊本県の県民への説明責任が求められています。

立野ダムの総事業費は、当初の2倍以上に膨れ上がり917億円となっています。通常、ダム建設の場合約3割が県負担とされることから、熊本県の負担額は約275億円と推定されます。県民一人あたり約1万5000円相当の負担です。

この試算はあくまで現時点でのものであり、川辺川ダム計画の場合、当初は350億円だったのが3300億円にもなったように、さらに総事業費が増え、県負担、県民負担が増えるのではということも懸念されます。

県財政は依然として厳しく、将来的な見通しも不透明、不安定なもので、県民の暮らし、福祉、教育などの施策もままならないなか、熊本県は莫大な額の立野ダム建設負担金を支払うことになります。

以上の理由から、「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」として、熊本県として、立野ダム建設について、県民に丁寧に説明することを要請します。

あわせて、県民への説明責任が不十分なもとでの立野ダム仮排水路トンネル工事に着工しないよう、国土交通省に求めることを要請します。

以上